

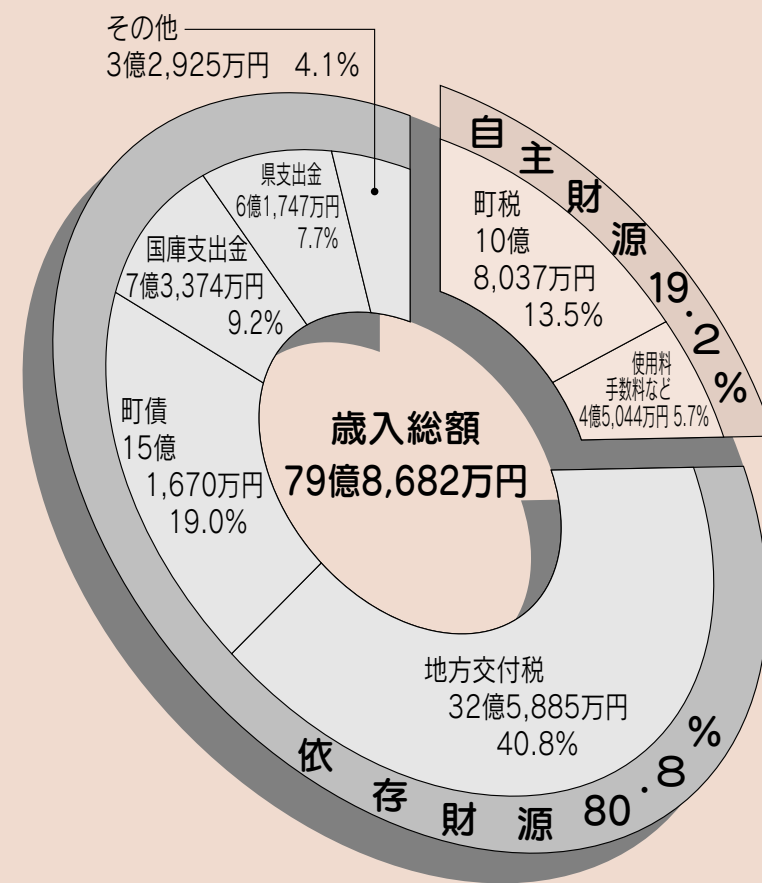
決算

第7次総合発展計画の中間年度

各種事業を着実に達成

平成十五年度の一般会計と特別会計の決算が、九月二十一日から十月八日まで開かれた町議会定例会で認定されました。一般会計の収支は、歳入が七十九億八千六百八十二万円、歳出が七十八億九千五百二十九万円で、差し引き九千五百五十三万円が十六年度に繰り越されました。歳入歳出とも前年度を下回り、歳入は前年度比で五・六％、歳出が五・四％の減となりました。景気の低迷を受けて厳しい財政事情が続く中、第七次総合発展計画の中間年度となった十五年度は、計画に掲げられた各種事業の実施を重点的課題として、地域住民の生活に密着した事業を進められました。皆さんが納めた税金、国や県からお金がどのくらい入り、どのような事業に使われたのか見てみましょう。

一般会計歳入・歳出決算状況



歳入 地方交付税は全体の41%

平成十五年度の一般会計の歳入(町に入ったお金)総額は七十九億八千六百八十二万円、前年度比五・六％の減でした。性質別に見ると、町が独自に確保できる自主財源(町税・使用料・手数料など)は、全体の一九・二％となっています。一方、国、県から配分されるお金や町債(町が資金調達のため政府や銀行から借りたお金)などの依存財源の割合は八〇・八％。前年度と比べると一・四％依存財源が増える結果となりました。

歳出総額 78億9,529万円



歳出 三年連続で土木費トップ

項目別では、国からの地方交付税が最も多く三十二億五千八百八十五万円で、歳入全体の四〇・八％を占めています。地方交付税の不足分を補う臨時財政対策債への振替額の増加に伴い、前年度比六・九％減。三年連続のマイナスとなりました。次に多いのが町債で十五億一千六百七十万円。臨時財政対策債や柳沢北浜地区土地区画整理事業などの起債は増額になったものの、山田中学校改築事業の完了に伴う大幅な減額があり、前年度より六・五％の減となりました。三番目に多いのが皆さんから納めていただいた町税で十億八千三十七万円、前年度と比べて四千三百六十四万円(三・九％)の減となりました。



町営住宅柳沢団地B棟

歳出(町が各種事業などに使ったお金)の総額は七十八億九千五百二十九万円でした。項目別に見ると、最も多く支出されたのが土木費で十七億七千六百一十万円、三年連続でトップとなりました。主な使い道として長林大浦線改良などの道路新設改良に一億五千九百九十六万円、柳沢北浜地区土地区画整理事業に九億一千三百五十五万円があります。続いて多いのが民生費の十六億三千二百三十三万円(八・四％増)、三年連続で前年度を上回りました。主なものに身体障害者支援費の四千七百四十九万円があります。次に多かったのは総務費で十億三千二百六十五万円。主なものにテレビ難視聴地域解消事業補助金の千六百万円、L G W A N(総合行政ネットワーク)等機器購入費の千六百九十九万円などがあります。町債の返済に充てる公債費は九億七千九百一十万円。前年度と比較すると千三百三十二万円、一・三％の減となりました。教育費は山田中学校改築事業の完了により、前年度比で四三・三％減となる六億三千七百六十一万円でした。農林水産業費は前年度並みの五億六千五百五十二万円。主な使い道として大沢、田の浜両漁業集落環境整備事業費に二億四千五百一十万円があります。衛生費は八・八％減の五億四千六百六十六万円となっています。災害復旧費は、五千三百三十四万円で、三陸南地震で被災した道路や漁港、学校施設などの復旧工事に使われました。